

The relationship between schizophrenia patients' attitudes towards physical health and the prevalence of metabolic syndrome

須貝 拓朗¹、鈴木 雄太郎^{2,7}、山崎 學³、下田 和孝⁴、森 隆夫³、尾関 祐二⁵、渡部 雄一郎²、松田 ひろし³、菅原 典夫⁴、古郡 規雄⁴、岡本 吳賦³、寒河江 豊昭⁶、染矢 俊幸²

- 1 医療法人責善会村上はまなす病院
- 2 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
- 3 公益社団法人日本精神科病院協会
- 4 獨協医科大学精神神経医学講座
- 5 滋賀医科大学精神医学講座
- 6 山形県立米沢栄養大学
- 7 医療法人敬愛会末広橋病院

[Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics 2020 Volume 11 Pages 23-34]

【背景】

メタボリックシンドローム (MetS) と死亡リスク増加との関連が広く認識されつつある。身体的健康問題に関する患者自身の意識やその行動評価は、患者に積極的な健康行動をとらせる、または代謝をコントロールさせるうえでも重要なパラメータである。

しかしながら、身体的健康問題を抱える統合失調症患者における健康意識の違いが MetS をはじめとした身体的健康問題と関連しているかどうかはまだ十分把握されておらず、同様の報告も少ない。本研究では、身体的健康に対する患者の意識と MetS 罹患率の関連について、さらに治療環境 (外来 vs 入院) によって身体的健康に対する意識に違いがあるかどうかを検討した。

【方法】

2012年1月～2014年7月にかけて、患者の健康意識に関する質問票 [外来: 22項目 (supple 1)、入院: 20項目 (supple 2)] を作成して調査を行った。それぞれ項目を点数化 (より健康的な意識ほど高い点数) した。

対象は日本精神科病院協会加盟施設に外来通院または入院中で、DSM-IV-TR または ICD-10 で統合失調症と診断されているものとした。また、MetS の診断は、ATP III-A の基準を用いて行った。対象の臨床特徴については、t 検定およびカイニ乗検定を用い、身体的健康に対する患者の意識と MetS 罹患率の関連についてはロジスティック重回帰分析を用いてそれぞれ解析を行った。

【結果】

最終的に 20 歳以上、性別、治療環境、MetS 診断の情報を有する外来 2213 例、入院 4363 例を解析対象とした。BMI、血圧、中性脂肪、LDL-コレステロール、空腹時血糖は外来患者よりも入院患者で低かった。また、Mets 罹患率は外来で 34.7%、入院で 13.2% であった。

ロジスティック重回帰分析の結果から、外来患者では身体リスクに対する関心、健康に関する知識や疾病予防意識が、また入院患者では疾病予防意識がそれぞれ高い患者ほど MetS 罹患率が低いという結果を得た。

【結論】

本研究より、MetS 罹患率には身体リスクに対する関心と健康知識、疾病予防意識の高さが関連している可能性が示唆された。健康状態に対する患者側の意識の低さは、内服治療へのアドヒアランス低下や代謝系の身体的リスク増加に影響を及ぼすとされ、今後改善すべき重要な課題と思われる。また、今回は MetS 罹患率と関連する因子として、入院患者では「身体リスクに関する関心と知識」は検出されなかったが、入院または外来という治療環境では、治療も含めた生活習慣全般のマネージメントが異なることによるかもしれない。

現在、日本では精神科医療の地域移行が進められているが、多くの入院患者は身体的健康に対する関心や知識が低いものと推察される。したがって、地域移行を進めるうえでも、特に長期の入院患者には退院へ向け、身体的健康に関する教育プログラムが必要と考えられた。